

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ハビステ伊集院		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 27名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育開始時にお子さんの発達段階を正確に把握する事(発達評価)が重要であると考えているため、専門機関(病院等)で使用されている評価方法(身体機能テスト・知的機能テスト等)を実施し、妥当性・整合性のあるプログラム提供に努めています。	語・見る力・身体機能面・社会性などの複数分野での評価を実施し、数値等を元にご家族にお子様の苦手なところ、得意なところのご説明を行っています。	就学相談を受けるお子様には就学相談時に当事業所で実施した評価を教育委員会へ提出させていただき、就学相談時にもご家族と同席させていただきご説明をさせていただいています。
2	PT・OT・STの専門職が多数在籍しているだけでなく、学校や保育の現場を経験しているスタッフも所属しているため、様々な角度で意見を交わした上で、支援プログラムを作成しております。	専門職による個別の支援も実施し、集団での活動も専門職の意見を取り入れながら活動を実施しております。また、運動面・言語面だけでなく、社会性を育てていくための活動も積極的に行っています	専門職が中心となって研修を実施しております。専門職から他の職員へも研修を実施し、様々な要素を取り入れた活動を実施できるように企業内研修制度を設けています。
3	児童の苦手なことをスモールステップで取り組み、楽しみながら活動を行えるよう、活動内容を工夫しています。	身体を大きく動かす運動の時間、言語や箸・ハサミなどの道具の使い方の練習を行う机上の活動の時間、絵本の読み聞かせなどで活動内容を構成し、遊びの中で楽しみながら取り組めるように活動内容を考えて取り組んでいます。	当事業所で児童が取り組むことができた内容等をご家族にメール・LINEにて報告しております。また、お家でも取り組める活動をSNSなどで情報提供したり、ご家族に対しては面談時にお伝えしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会のように、ご家族が一堂に会してコミュニケーションを取る会の実績がありません。	他地域にわたってご利用をいただいているため、一堂に会す場合も実施場所等で苦慮する部分がありました。	今年度は就学児相談会としてご家族の方が一堂に会す場を設けることができました。コミュニケーションをとることができる場の設定も実現できることが望ましいと考えています。
2	地域交流のためのイベントの実施ができておりません。	活動時間が1時間という中で、地域の方との交流というイベントの実施が難しいと考えています。	児童が地域の方との交流を行えるように、地域の施設に出向くなどのイベントを活動の中で取り入れていきたいと思っています。
3	ペアレントトレーニングとしての家族支援プログラムの研修会の実施が行っていません。	個別の面談時に児童の困り感に寄り添えるご家庭でも取り組める内容や声掛け等のアドバイスを行っています。個別での対応を行っているため、研修会の実施などの大きなイベントとしては実施ができていない状態です。	複数家庭が参加できる研修会やグループ形式の支援の実施方法を検討し、より多くの保護者に家族支援の機会を提供できるよう工夫していきます。